

2016年(平成28年)12月6日(火曜日) (1)

シカ捕獲 ドローンの目

愛知の企業進出 大樹で実証実験

【大樹】ドローンを活用した有害鳥獣駆除のシステムを開発する「キャリオ技研」(本社名古屋市中区、富田茂社長)は来年4月から、町内で同システムの実証試験に取り組む。大樹には森林や平原など試験効果を確認しやすい条件が整っているため、町内に拠点を置き、将来的には地元関係者と連携しながら、ドローンによる森林管理なども行いたい考え。

同社は次世代自動車や無人飛行ロボットの開発に取り組んでいる。有害鳥獣駆除に関しては3年ほど前から愛知県で開発しており、今年4月には国の国家戦略特区事業にも認定された。これらを通して画像認識技術や、画像認識を用いたオートパイロット技術の開発を行っている。

来春に拠点開設、地元雇用も

大樹では山林や町多目的航空公園を活用して試験を行う。シカなどの有害鳥獣をドローンで追い立てて効率良く捕獲する技術や、わなに取り付けたセンサーにより捕獲を確認する技術、動物にセンサーを付けて生態を調べる技術を試験する。将来的には町森林組合などと協力し、山林の生育状況の管理、捕獲した動物の搬送などへのドローン活用も研究する。

富田社長は「山林は高温多湿で電波が減衰する。そうした状況下での通信環境確保に向けた試験ができる」と話す。また、谷などがない平原で電波を邪魔するものがないため、試験に適した環境だという。

町内に拠点を置き、来年4月から事業を行う予定。当初は10人ほどの人員を想定し、将来的には30人ほどの体制で取り組む。

多くを地元から雇いたい考えがあり、富田社長は「事業所を置いて恒久的に地域のための開発をしていきたい」としている。(伊藤亮太)